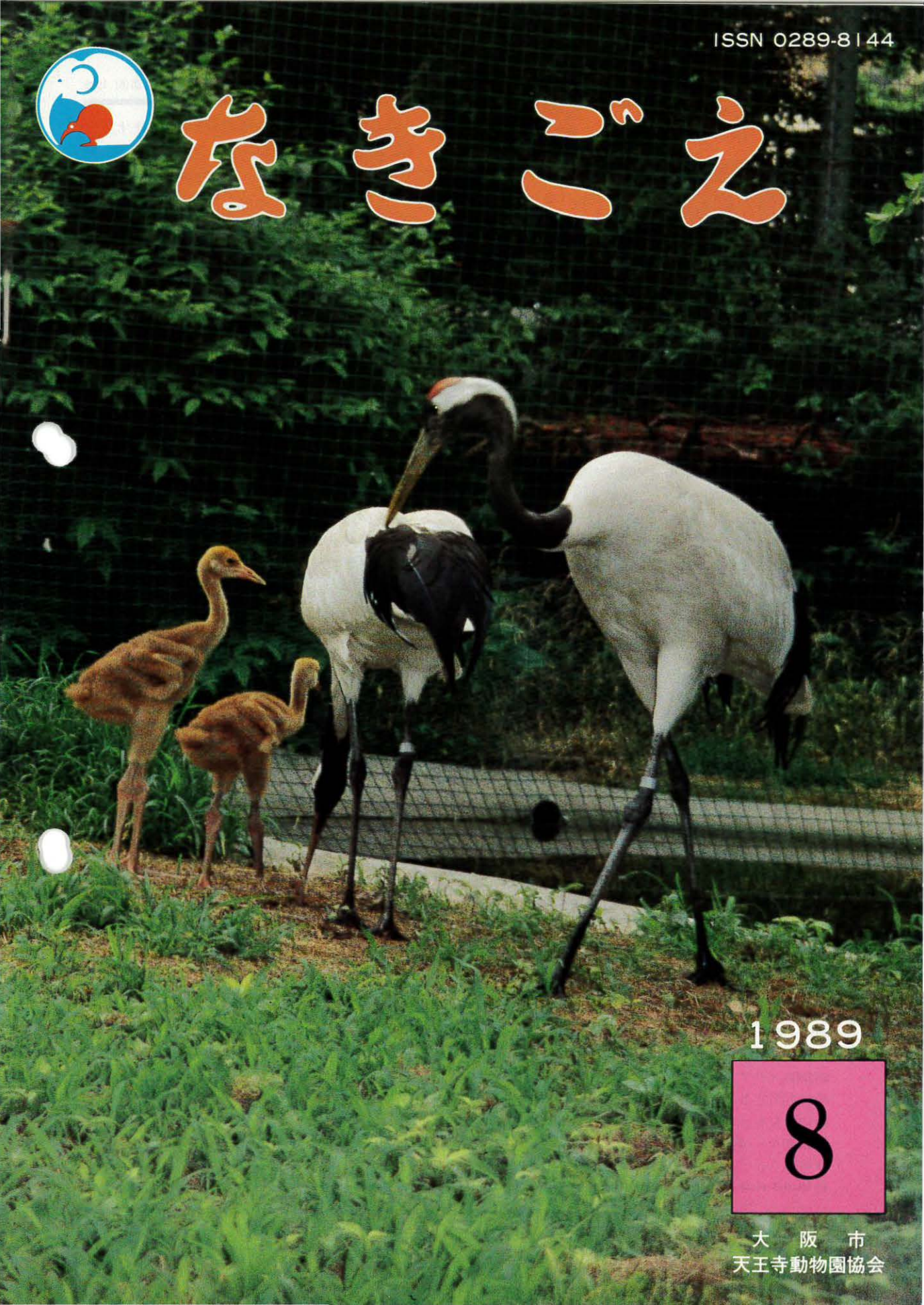
ISSN 0289-8144

なきごえ



1989

8

大　阪　市
天王寺動物園協会

動物と私

正　置　友　子

人間以外の生き物にはほとんど関心をもたないのに、唯一あこがれにも似た気持でいつか会ってみたいと思い続けている鳥がいます。シマフクロウです。「シマフクロウ」ときくと、ゾクリとするような胸の高なりを覚えます。

シマフクロウとのそもそもの出会いは、絵本『しまふくろうのみずうみ』(手島圭三郎作　福武書店)でした。この絵本は北海道で版画の製作をしている手島氏による版画絵本で、ダイナミックな美しさにあふれた作品です。湖のほとりを舞台に、シマフクロウの親子の夕方から朝方までを描いたものです。枯木にとまる三羽の親子。ひなを真中にしておとうさんとおかあさん。魚をとるために飛び立つおとうさんシマフクロウ。一回目魚をとれず湖の流木にとまっていると、湖水を渡ってひなの声がひびいてきます。おとうさんはもう一度湖の上に舞いあがります。魚を見つけて水面に急降下。ついに魚につめをかけ、翼を大きくはばたかせるシマフクロウ。この作品のクライマックスの場面です。

大きな画面の左右からはみだすようにして、いっぱいにのびきったシマフクロウの翼。大きく広げられた翼が織りなす曲線と直線の力強さと美しさ。それは翼のシンフォニーと言える程のみごとさです。

青山台文庫にくる子どもたちにこの絵本を読み、この場面にくると「わぁー!」と声があがります。小学生の子どもたちも「すげえや」とか「ほおう」とか思わず感嘆の声をあげます。図書館などでおとなの方達に見ていただいてもこの場面にくると、ハァーというためいきの大合唱がわきおこります。

『しまふくろうのみずうみ』の作者手島氏は、少年時代を北海道の北の方ですごし、電柱にとまったシマフクロウがじっと自分の方を見おろしているという体験をされたそうです。「シマフクロウのうしろにひろがる大宇宙のひろがりときらめきは、少年の心に無限の神秘感をいだかせた」とあとがきにありますが、シマフクロウにはその背後に自然の悠々とした広がりと命の神秘さを感じさせるものがあります。

北海道で版画表現を続ける手島氏にもう一冊シマフクロウの絵本があり、それはアイヌのユーカラをもとにつくられた作品です。アイヌの人たちは万物の中に神を見い出しましたが、中でもシマフクロウの神はアイヌの人たちにとって最高の神でした。シマフクロウの神の名はカムイチカプといいますが、神の鳥という意味だそうです。絵本のタイトルも『カムイチカプ』(福武書店)

表紙に、見るからに堂々とした、神々しい程のシマフクロウが立っています。シマフクロウはアイヌたちの村々の、海の守り神、みんなからうやまわれる存在です。ところがある年、シャチの群の中の若いものが年よりの言うことをきかず、シマフクロウを馬鹿にします。怒ったシマフクロウが翼を広げると、その怒りで風がおこり、山が崩れ、土砂が流れ出し、海に突進し、シャチの群をおそいます。シマフクロウの怒りのすさまじさに圧倒されます。

いま北海道で生息しているシマフクロウの数はせいぜい百羽だそうです。生息地の開発、エサのサケやマスが河口でとられてしまうこと、防鳥網での事故死とシマフクロウが絶滅する方向に人間が手をかしています。北海道の森でシマフクロウに実際にお目にかかるということはないかもしれません。シマフクロウよ、生きのびてくれ、と大阪から叫んでいます。

(児童文学評論家)

なきごえ8月号もくじ

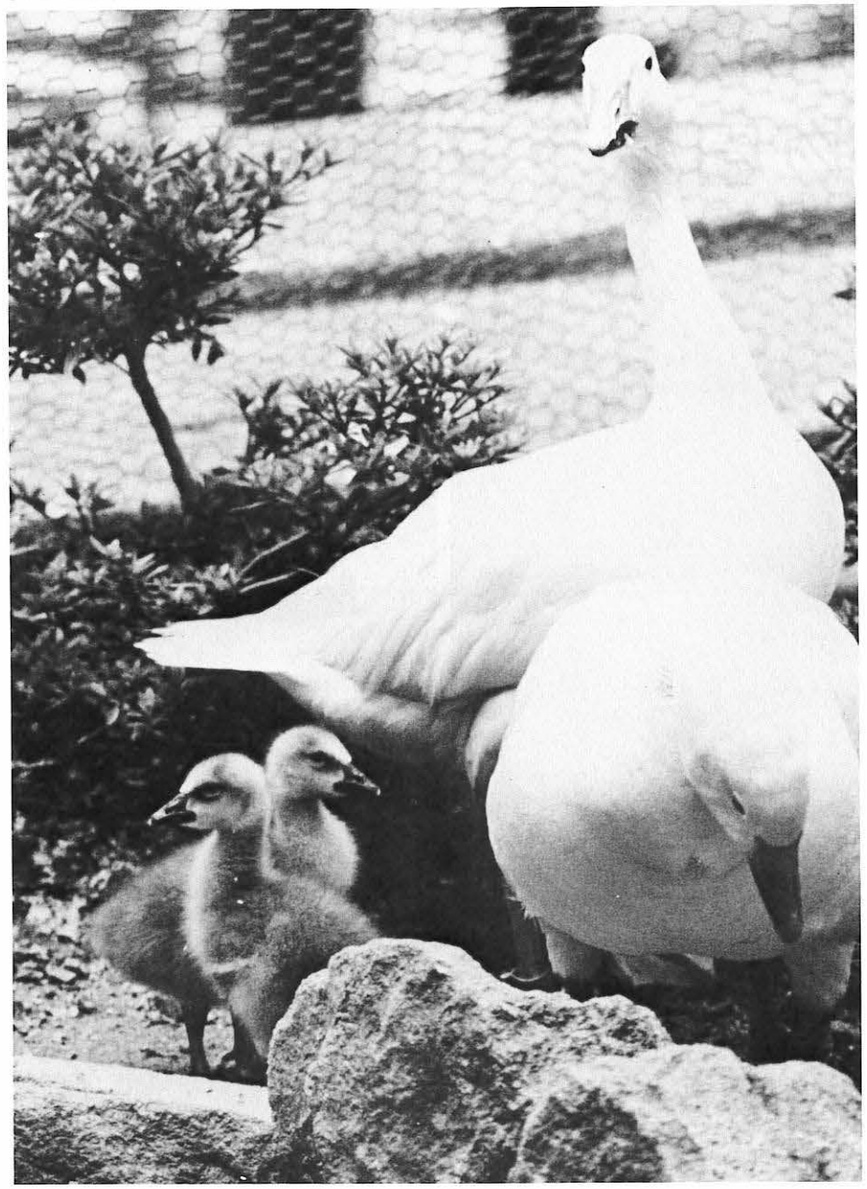
動物と私 …… 2
“ハクガンの赤ちゃん誕生” …… 3
動物園グラフ・動物園日記 …… 4・5
動物古名立ち話 …… 6・7
動物園をもっと楽しくするために …… 8・9
獣医室から ⑤⓪ …… 10
動物園ニュース …… 11

表紙の写真説明

“タンチョウの親子”

今年も6月初旬にタンチョウのひながふ化し、約1ヵ月でこんなに大きくなりました。

(撮影：樽本　勲)



“ハクガンの赤ちゃん誕生”

ハクガンのヒナの誕生は開園以来初めてのことです。バードケージ“鳥の楽園”で、親子で仲むつまじく歩いている姿がみられます。(写真は生後7日目のもの)

(撮影：森本　委利)

動物園グラフ

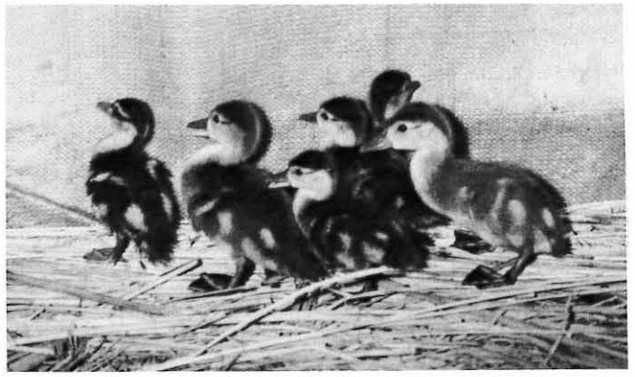
“ベビーラッシュたけなわ”

繁殖シーズン到来。今年も赤ちゃんがたくさん生まれました。その一部を紹介しましょう。

（写真と文：榊原　安昭）

▲ワライカワセミ
今年は２羽自然ふ化しましたが、成育したのは１羽だけでした。約１ヶ月で巣立ちました。

▲ブラックバック
今年は記録的な出産ラッシュ、１月に１頭、２月に２頭、３月に２頭、５月に１頭生まれました。

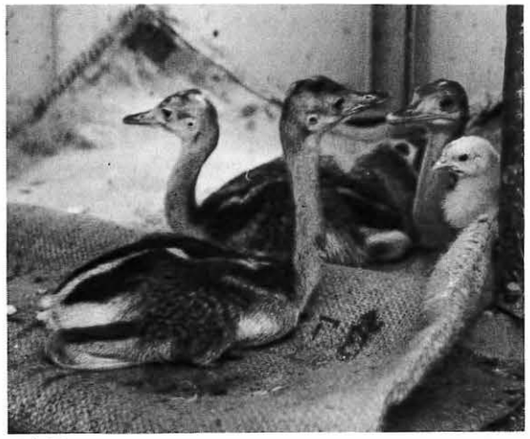


▶ アカハシハジロ
４月６日から次々ふ化し、収容場所に困るほど。天王寺では珍らしい鳥ではなくなりました。

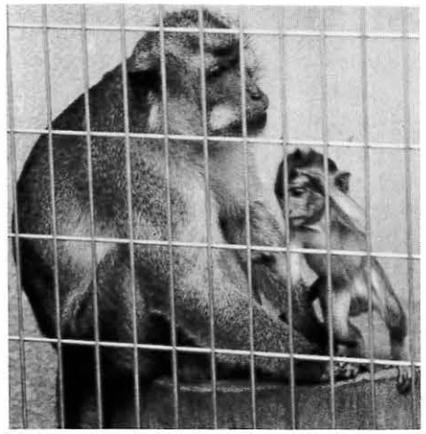
５・６月の動物園日記

5 /28．ハクガンが自然抱卵を始めました。
5 /29．新たに来園したマントヒヒのメスの検疫が終了したので見合いの後、同居展示することにしました。
5 /30．カナダガンのオスがタンチョウと闘争するため、カナダガンを隔離しました。
6 / 1．毎年恒例の「ヒツジの毛刈り」を行いました。オーストラリア・メルボルンよりコアラ３頭（オス１、メス２）が来園しました。また、同時にコアラ飼育班もオーストラリアより帰国しました。
6 / 2．ケリのヒナを１羽保護しました。
6 / 3．オウサマペンギン、マカロニペンギンを冷房舎へ移動させました。
6 / 5．今年始めてのタンチョウとレアがふ化しました。
6 / 6．アジアゾウの春子の右牙が折れてしまいました。
6 / 7．２羽目のタンチョウがふ化しました。昨年生まれのカリフォルニアアシカの３頭目の離乳を行うため、隔離しました。
6 / 8．4月24日生まれのハクビシンの子供5頭のうち1頭が、はじめて巣の外へ出てきました。
6 / 9．伊丹空港税関で緊急保護されたヒメハヤブサ７羽は当園に２羽が、他は神戸、京都の動物園に収容されました。
6 /10．マレージャコウネコのメスがオスより咬傷をうけたので手術を行いました。
6 /11．昨年生まれのカリフォルニアアシカ２頭の離乳に成功し、餌の冷凍アジ（解凍したもの）を確実に食べるようになったので、親たちのいるアシカ舎プールに戻しました。
6 /12．インドクジャクが５羽自然ふ化しました。
6 /13．本日ふ化予定のレアが、自分で卵の殻を破って外に出られないため、飼育係の手で殻を破ってやりました。
6 /14．タヌキの子を３頭保護しました。
6 /16．ニホンジカが１頭生まれました。
6 /18．カリフォルニアアシカが１頭生まれました。第50回動物のお話とスライドの会「世界のツル」を開催しました。
6 /19．本年ふ化のバードケージの巣台の上にいるヒナ２羽について、個体識別のための脚帯と翼帯を装着しました。
6 /22．ハクガンが１羽人工ふ化しました。近畿地区動物園獣医師勉強会を行いました。ヌートリアの子供が４頭生まれました。
6 /23．ハクガンがさらに１羽人工ふ化し、親が抱卵していた２羽が自然ふ化に成功しました。
6 /26．ワライカワセミのヒナが巣立ちました。

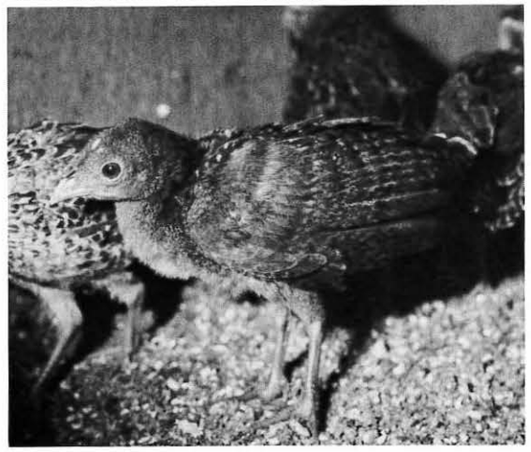
▲タンチョウ
昨年始めて１羽のヒナをかえしたペア。今年は２羽のヒナが元気に育っています。



▲レア
餌の食べ方の先生は、ニワトリのヒヨコ。小さな先生の指導よろしく３羽のヒナは元気いっぱい。



▲カニクイザル
生後６日目に水に落ち仮死状態に。手当のおかげで母親のもとへもどることができました。



▲セイラン
キジの中では大型で鳳凰（ほうおう）のモデルといわれています。天王寺では毎年ふ化しています。

動物古名立ち話

動物の古い呼び名を調べてみますと、日本書記や古事記に著されているもの、中国の呼称を取り入れたもの、学名や英名をかな化したものなどがあります。当園に残っている昔の古い動物台帳やスクラップ、アルバムなどを紐解くと当時、動物に付けられていた名前が非常にユニークで想像も出来ない名前やユーモラスな名前、また、的を得たぴったりな名前などいろいろ見られます。

今回は古い書物や中国の動物誌、年史そして辞典をも繰り出して哺乳類を中心に変わった名前を紹介しましょう。

日本書紀に、「彦火火出見尊、兄君の釣針を失ひ之を尋ね求めて海神(ワダツミ)の宮の至り給いし時、海神(ワダツミ)、海鱸(ミチ)の皮を八重に敷きてお迎えす。」とあります。この海鱸（みち）とは、アシカのことで、たぶん今は絶滅してしまったニホンアシカのことと思われます。1610年正月、徳川家康、松前伊豆守に膃肭臍（海狗腎）を献ず可く命ず、とあり、とりあえず松前藩はその5月に海豹皮を幕府に献じ、改めて1612年5月に膃肭臍2箱を家康に献ずとあります。この膃肭臍（膃肭獣）とは、オットセイのことで松前藩では季節的に南下するオットセイが捕獲出来たのかも知れません。

1076年、源義家が陸奥守となりて下るや清原真衡、海豹等を献じてもてなす。1153年、奥州高鞍庄の年貢増加され、水豹皮等5枚貢ぐ。江戸時代1838年、相州辻堂にて水豹捕へられ将軍の上覧に供す、とあります。これら水豹、海豹とはアザラシのことで、鰭脚目の海鱸、膃肭獣、海豹の文字は戦前の当園の動物台帳に記載されておりますが、中国から伝わったと思われる動物名は膃肭獣と海豹で中国語辞典にも載っています。中国ではアシカの海鱸は海獅(hǎishī)と呼びます。オットセイは膃肭臍(wanàqí)とか海狗（hǎigǒu）とか海熊（hǎixiǒng)と呼び、アザラシは海豹（hǎibào）と呼びます。

611年、推古天皇の時代に天皇と共に狩りをした諸臣のうち、位の高い大仁小仁が付ける髪飾りに豹（なかつかみ）の尾を用い、大禮以下は鳥の羽根を用いたとあります。昔はこの豹のことを「中つ神」と称しています。何故なら陰陽道8将神の真中に位置する豹尾神として崇められていたからです。当園では斑紋のあるヒョウを花豹と呼びますが、中国では金銭豹、文豹などと呼びます。虎のことは日本書紀に、545年、欽明天皇の時代、「膳臣巴提便(カシワデノオミハヒラビ)を百済に遣わし虎の皮を剝ぎ取り帰る」とありますが、聖武天皇の天平11年、739年に渤海国よりの献上物の中に大虫の皮7張り……云々の言葉があります。この大虫とは中国からきたトラをさす言葉ですが中国語辞典を見てもその語源はも一つ判りませんでした。因みに中国の華南地方の古い方言で「タイラ」という呼び名もあります。この他、英名をそのまま使った「こあいち」或は「コーチー」と呼ばれたハナグマ、中国語の、「獾(huān)」をそのまま用いたアナグマ、「むさんぐ」「きわへう」「きょわへう」と呼ばれたマレージャコウネコ、「むさんぐ」は東南アジアの現地語のムッサンからきています。「きわへう」の意味は残念ながら判りません。ハクビシンの「ぱぐま」は学名の Paguma larvata からきています。他に白鼻狸とも呼ばれていました。

1772年にオランダ人が薩摩の国へ豪猪なるものをもたらし、之を島津氏が田沼意次に献上とあります。この豪猪は宦医田村蘭水に下附され、翌年「豪猪図説」が彼によって著されています。また1787年にも2頭が長崎に渡来しています。この豪猪はヤマアラシのことですが、薩摩或は長崎にもたらされたヤマアラシはタテガミヤマアラシかフサオヤマアラシだと思われます。因みに中国でも豪猪(háozhū)と呼び、長江以南に生息し、穀類、根菜、疎菜など一夜に40斤を盗食し被害大なりとあります。しかし、その肉は食べることができ、味は美味なりとあります。

水獺、この名前は戦前の動物台帳及び中国の動物誌に見られます、中国では水獺を（shuǐta)、またの名を獺猫（tǎmāo)、水狗（shuǐgǒu)と呼びますが、北アフリカ、ヨーロッパ、アジアに広く分布するカワウソのことです。特別天然記念物のニホンカワウソは最近の調査では、過去の密猟と開発によって今では四国西南部にわずか数頭の生息が考えられるだけで、昭和54年夏以来、その姿を見たものはありません。当園ではカワウソは昭和3年に初めてお目見えし、南米産の大獺（オオカワウソ）は大正14年に本邦初来としてお目見えしました。

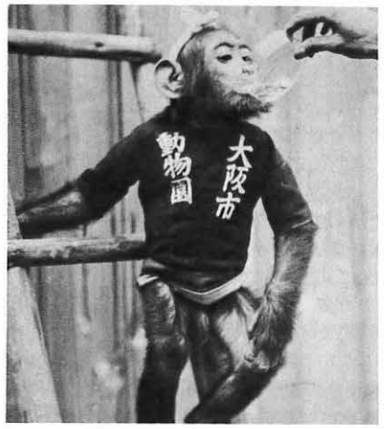
子守鼠、袋鼠とよばれたフクロギツネ

子守鼠、袋鼠は大正14年に本邦初来としてお目見えした有袋目のフクロギツネのことで、昭和4年には袋熊の名前でウオンバットがお目見えしています。最近ではオーストラリア産動物の輸出規制が厳しく、現地から直接に入れるのは中々難しくなってきています。

サル類は色、形状、仕草などの特徴を捉えて○○猿、○○猩々と名付けているものもありますが、中には英名或は学名をそのまま使ったものもあります。中国ではサルを猴、猿、猩々の3つに分けています。猴（hóu)は尾の短いサル、猿（yuán）は尾の長いサル、猩々（xīng. xīng）は類人猿を指します。

当園の古い台帳では、スローロリスはその動作を映して惰猿に、ウーリーモンキーは毛皮を形容して綿羊猿に、リスザルは口唇周りが黒いので口黒猿に、ベニガオザルは顔が赤いので紅顔猿、紅面猿に、ブラッザゲノンは顎髭、が長いので髭猿に（パタスザルかと思うこともありますが)、ウアカリはその人間臭い顔つきと毛色から金猩々に、マーモセットは毛並みと大きさから絹猿、豆猿に、ゴールデンライオンタマリンは英名を直訳してらいおん猿に、ボンネットモンキーは女性や子供が被る帽子から頭巾猿に、ダスキールトンは目の回りが白いことから、白まぶたざるや、学名の Presbytis obscurus から、おぶすきゅら猿などといろいろな名前が見られます。あとはご存じの猩々ですが、元は人に似た想像上の動物で賢く、酒を好むとありますが、この動物を紹介した江戸時代の物産展では類人猿を西洋人同と呼んでいました。猩々とはオランウータンのことで、毛色から赤猩々ともいいますが日本に初めてはいったのは1792年の寛政4年のことで「和蘭人、ボルネオ産のオランウータン持ちきたる」とあります。以来何度か日本に入っていますが、これになぞられて、色の黒いチンパンジーを黒猩々、体の大きいゴリラを大猩々と名付けるようになりました。チンパンジーが初渡来したのは、1927年（昭和2年）10月のことで、当園が当時の金額、1800円で購入しました。ゴリラの初渡来は1957年（昭和32年）11月に上野動物園が購入したのものが初めてです。

惰猿とよばれたスローロリス



動物園での初来動物 黒猩々とよばれたチンパンジー

アルマジロは夜行性動物でおなじみですが、昭和4年当時の動物台帳では、その分類は貧歯目ではなく異節目とし、廣帯鎧鼠という名称を用いていました。しかしこの名称ではどういう動物が想像も出来ず、当時のスクラップブックを良く見ますと帯甲の数も多く、また幅も広く長い剛毛も見られることからアラゲアルマジロと判断することが出来ました。さしずめココノオビアルマジロでしたら九帯鎧鼠とでも書いたのでしょうか？

嚙歯目ではシマリスを縞鼠と戦前の台帳に記されており、これは簡単に判別出来ましたが、海狸鼠、びいばあ鼠、みおかすたぁでは、やはりなんだか判りません。中国ではビーバーのことを海狸と呼ぶことから、近似しているヌートリアに海狸の字を借用し、このように表記したのでしょう。みおかすたぁは属名をそのままもちいています。

ブチハイエナは斑紋狼、シマハイエナは縞狼とオオカミでもないのにただ、獰猛で形態が似ているということからこの名称を用いています。

シマウマは縞馬と、読んで字の如しそのものですが、当園の戦前の台帳では斑馬と表記しています。シマウマを中国語では斑馬（banmā)と言いますが、用いたのはどちらが先なんでしょうか？

キバノロは牙獐、がしゅう、麞といいますが、これはあきらかに中国からそのままに伝わったものと思われます。アキシスシカは、ちたあるともよびますが、これは異名です。また、サンバーを大鹿、水鹿、トナカイを馴鹿と表記していましたが、これも中国から伝わりました。

日本書紀に、「少彦名命、鷦鷯(ササギ)の羽をもって衣となし、舟に乗りて波のまにまに出雲国五十狭の浜に着きたまふ」……とありますが、ここで言う鷦鷯(ササギ)とはミソサザイのことです。又、カワセミも日本書紀に登場し、翡翠(ソビ)の名で呼ばれていましたが、この他、翡、翠、翠鳥の名があります。トビは日本書紀に、「金色のあやしき鵄、御弓のはずに止まりて光輝くこと雷の如し、賊軍眼くらみて即ち潰ゆ」……とありますが、ここでいう鵄は鳶と同じものを指します。

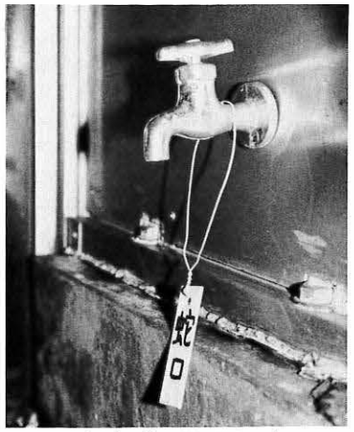
セキレイは古事記に「鶺鴒（マナバシラ）尾引き合え……云々」とあり、ここでいうマナバシラはセキレイをさし、このほか、つつという名でも呼ばれています。カイツブリは鳰、にお、アトリは臘子鳥、臈子鳥、ミゾゴイは臼女鳥、碓女鳥、うすめどりと呼ばれていました。トラツグミは鵺、ぬえ、ウトウは善知鳥といふ名前でも呼ばれています。

まだ、いろいろたくさんの古名がありますが、今日の立ち話はこの辺で……。

（飼育係長：中川哲男）

動物園をもっと楽しくするために

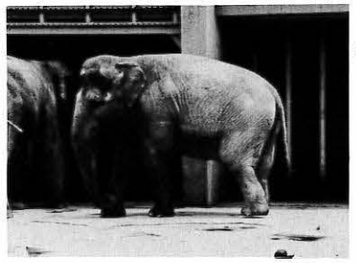
私は以前、ハ虫類の飼育担当をしていました。ハ虫類といえば、ゾウ・ライオン・サル類等と共に動物園ではなくてはならない動物の部類に入ると思います。しかし、当園でも人気のあるセクションであるのにもかかわらず、展示方式が古いためか、どの園よりもより多くの種類・点数を飼育しているのですが、人々はただハ虫類舎の展示エリアを一周りするだけに終ってしまっていることが多いのです。それも動きの少ないヘビを動かそうとするためか、腹だたしくガラスをたたく音。異質なものをみるような冷たい視線。自分の担当している動物達が、正しく観てもらえないことは、だれもがくやしいことです。彼らの生活環境に合った生態展示であれば本来の魅力を引きだせ、もっともっとじっくり観てもらえるかもしれないと思いました。でも、現実には大改造をするか、建て直す以外にはむつかしいような気がします。



ヘビは水の神。だからというわけではないですが『蛇口』

ハ虫類は、なぜか他の動物とは違った意味で人を引きつける魔力のようなものがあります。特にヘビにいたっては、大古の昔から人類の生活に様々な形でかかわりをもってきました。そのためか、ヘビにまつわる古事等は他の動物よりずば抜けて多くあります。信仰の対象、身近な生活道具にもみられ、地名、用語などは今でも生きつづけています。もし、このような人間と動物の深いかかわりを、展示の中に表現することができれば楽しいし、ヘビに対する一般の人々の見方も少しは変るかもしれないと考えました。というのも、ある動物園の中の水族館でのことです。中には家庭にもあるような小さな水槽がいくつかありました。中で飼育されているのは、けっして外国の珍らしい色あざやかな種類ではなく、ごく身近なメダカや、ヨシノボリのような淡水魚だったと思います。そして、背景にはメダカの学校の五線譜が。私はそれをみた時、とてもうれしくなりました。その動物を飼育している人の情熱や、やさしさが伝わってくるようでした。解説文を読んでもらえないとなげくよりも、一人一人が工夫をすればけっして伝わらなくはないと教えてもらったようにも感じました。そしてこのことが、ハ虫類の展示に自分なりに工夫をし始めたきっかけの一つです。背景に絵をかいてもらったり、植木をいれてみたりもしてみました。その中でも最もうけたのは、ヘビの部屋の中におもちゃの蛇口をとりつけたことです。その他蛇腹も置きました。ただ蛇腹というヘビがどこにいるか真剣に探したという人もいた位ですから。こんなことも、きっちり伝承していかなくてはならない時代であるとの認識も、改めさせられたものです。

調子にのった私は、続いて亀の子たわし（亀の子たわしは商標登録されている。もちろん元祖亀の子たわし）をさりげなくぶらさげたり、亀甲網等々、帰宅時におもちゃ屋や雑貨屋をまわりながら、なにか使えそうな物はないかと探すのも楽しい時間でした。はっきりいって、この作戦は大成功ではなかったかと思っています。「ふざけたことをするな！」などと文句を言ってくる人はいなかったようです。ただ、これらは人間とヘビ類との関わりから生まれた言葉であるという理解はされず、単なるジョークだとしか思わない人が多数いたかも知れません。これも、動物名同様カタカナ表示をしていれば、ますますジョークだと思われたでしょうが、いままでない反応が入園者の中からわきおこるようになってきました。ハ虫類舎の周りから笑い声が中にいる私の耳に入ってきます。ある学校の先生も理解してくれて、生徒に「いくつそんなのがあるか探してみなさい」と言ったとか。ある意味では動物と人間の関わりを表現する具体的な一歩だったかも知れません。『民俗学的展示だ』と公言してはばかりませんし、以来けっしてオーバーでなく、動物園が、動物との関わりを表現する施設であることに、名のりをあげてもいい時期だとひそかに感じています。



象は象形文字の始まり。

動物園が、動物のことの全てを伝える博物館という位置づけをするならば、今欠けていることは人間との感情の交流の歴史・かかわりの歴史さらに、現実と未来ではないでしょうか。無限に近い動物との交流から創造された文化は実に素晴らしいものです。それらを伝承してきた多くの人々の自然観と動物観察力には全くおそれいります。どれをとっても、生態学であり、形態学であり、りっぱな自然学だといえます。本に書いてある解説文をそのまま使ってみたり、ほとんどの人が読んでも分らない学名や、英名を記すことだけが学術的なのか、そうならば和名はどうしてカタカナなのか、その動物を最も表わしている漢字はどうして使用しないのか。動物名はけっして記号ではなく、

一つ一つはその動物により親しんできた結果のあだ名です。九州ノウサギが九州のウサギと読まれたりする時代ですから、再考する必要は多いにあると思っています。

植物の名前にも動物からついたのがあり、楽しいものです。動物ファンは植物には無関心であったりけぎらいをすることが多くみられます。又、その逆の場合も同様です。本来、自然界はあらゆる生物が複雑にからみあい共存していることはあきらかなことです。ですから狭い分野ごとに区別してしまうことが間違っているのです。たとえば一つの方法として動物舎の内外に関連する名前の樹木や草花をレイアウトをすることは、それ程困難なことではないはずです。ただし、これはやはり漢字表示がないと理解されないでしょう。

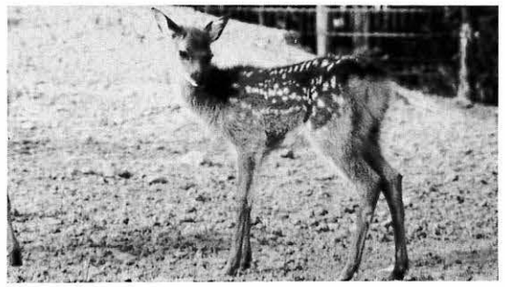
トラと虎の尾、ライオンと獅子頭・ライオン殺しの木、キツネと狐のカミソリ、タヌキと狸藻、キリンと麒麟草、シカと鹿子の木、サルと猿捕りイバラ猿すべり、ヒツジと羊草、イヌと犬山椒、ウシと牛殺し、ネズミと鼠黐、カモと銀杏(鴨脚)、オオルリと大瑠璃草、クジャクと孔雀草、ツルと折鶴蘭、カッコウと郭公薊、サギと鷺草、カラスと烏ノ跪豆、雁と雁音草、ヒヨドリと鵯花、ホトトギスと時鳥、等々。

日本猿の尾はほんの猪尾っと
狐にだまされ、猿は魚を釣るため池に尾をつけていたところ、凍ってしまい、尾がちぎれてしまったとか。

爬虫類もあります。ヘビと蛇登らず、蛇髭、マムシと蝮草、少し民俗学的にはヘビと梛（ナギ)、酸漿（ホオヅキ)、蒲葵樹（ビロウジュ)、ウミガメと浦島草も面白い。おそらく相当多くのどの動物にもあるのではと考えられます。このような名前をつけた先人の観察力とユーモア精神は、現代人が失ってしまった最も貴重な、それこそ民俗的遺産と思えて仕方がありません。

よく、動物園でも、あるいは自然観察の会等でも名前を教えたり、知ったりすることが、大事だとされることが多くみられます。それはそうかも知れませんが、ほとんどの人々は名前が分ったというだけで、もうその動物や植物のことすべてが理解したと錯覚してしまいます。そして、それ以上には探究しようとしません。教える方も、名前を知っていないと、信用されないし尊敬されないものだから、どうしてもこだわってしまいせっかく実物を目の前にしながらそれの生活史や、その向こうにみえる自然環境の理解には程遠くなってしまいます。

このような現実の中で、いかに動物が人間と深く関わってきたか、又人間もこれからどのように関わっていかなくてはならないかを訴えるために、ユーモアを混じえた表現というのが必要なことだと思います。しかし、このことがけっして動物園を低俗的にすることではありません。


シカの子は鹿の子模様

誌面に限りがあるので多くは書けませんが、日本各地はもとより外国にも必ず動物にまつわる民話があります。地域の人々に受けつがれ、又拡がっていった話をわかりやすい言葉で語りかけることほど人々の心をうつものはないと思います。これは何も文字に現わすという事だけではなくて、動物園人が語り部になってできれば素晴らしい事になるでしょう。

動物舎の中にも取り入れることができます。キツネのいるところに稲荷神社、サルには猿渡りや庚申塚、ウマと馬頭観音、(一馬力に挑戦＝一秒間に75kgの重さを一メートル曳き上げる）雁と雁風呂の話を聞きながら雁音茶を一服のむ。こんなことを考えたり実際やろうとすれば、まず現状の動物園界では限界があります。その為には、様々な学問や施設との協力が必要になってきます。そのような連帯関係が生まれてくることによって、初めて動物園が博物館として位置づけられるのかもしれません。あるいは園や館とかいう名前にこだわるのが間違っているような気もします。人間と生物の境界のない開放空間。それは、今流行のふれあいとかという人間中心のものの考え方ではなく、人間が生き物から楽しく学び人間も生き物である発見をする時間を過せる場所という位置付けではどうでしょうか。

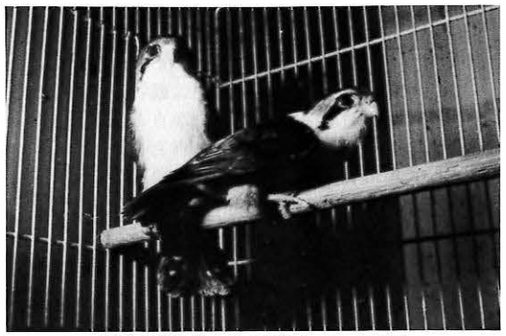
もし、それが可能ならば子供動物園とか科学資料館とかを特別に建設する必要はありません。この中には全てが含まれてくるはずですから。

私は昨年末から夜行性館に新たに担当が変わりました。まだまだやり残した事は多いのですが、今回の所も、いろんなアイデアがあります。これからも少しずつ工夫そして面白い展示をしてゆくつもりです。楽しみにして下さい。

（飼育課：大野尊信）

獣医室から㊿

★ モモアカヒメハヤブサの緊急保護



緊急保護されたモモアカヒメハヤブサ

6月9日、モモアカヒメハヤブサという全長20cmたらずの小さなタカの仲間がワシントン条約違反ということで摘発され、動物園へ緊急保護されました。保護された2羽は検疫のため動物病院に収容されました。

モモアカヒメハヤブサはタカ目、ハヤブサ科に属し、頭は灰黒色で背中と尾羽が黒く胸から腹にかけては白い鳥です。目から頬にかけて黒い線があり、目の上から後頭部にかけてと腿が橙かっ色をしているかわいい猛禽です。インドからヒマラヤ西部、ビルマ、インドシナ半島に広く分布しています。主に飛びながら昆虫を捕えて食べており、時にトカゲ、ヘビ、小鳥なども食べることもあります。

このモモアカヒメハヤブサは、大阪府下松原市のペット業者が7羽を手荷物として小さなダンボール箱に入れ税関を通過しようとした際に摘発されました。モモアカヒメハヤブサを含むタカ目のすべての鳥はワシントン条約の附属書Ⅱに分類されており、輸入する際には現地の輸出許可証が必要ですが、その発行を受けていなかったため摘発されました。摘発されて任意放棄された7羽のモモアカヒメハヤブサは当園に2羽、京都市動物園に3羽、神戸市立王子動物園に2羽と分けて保護収容されました。

ワシントン条約は正式には「絶滅の恐れのある野生動植物の種の国際取引に関する条約」といい、1972年にストックホルムにおいて開催された「国連人間環境会議」において、絶滅のおそれのある野生動植物の種の保護を図るため、輸出入を規制する条約の早期採択が決議され、翌1973年にアメリカ合衆国の主催でワシントンにおいて会議が開催され、この条約が採択されました。そのため日本ではこの条約を「ワシントン条約」と呼んでいます。日本は1978年にこの条約に署名しましたが、国会での承認が遅れ、発効したのは1980年の11月のことでした。

この条約では、絶滅の恐れのある動植物を三段階に区分しています。〔附属書Ⅰ〕は最も絶滅の恐れがあるもので、原則として商取引は禁止されています。〔附属書Ⅱ〕は現在必ずしも絶滅の恐れはありませんが商取引を規制しなければ絶滅の恐れのあるもので、輸入には輸出国の輸出許可証が必要とされています。〔附属書Ⅲ〕は条約締結国が自国内の保護のため他の国の協力を必要とするもので、輸出許可証、又は原産地証明書が必要とされています。

日本は象牙加工やベッコウ製品、捕鯨などの国内産業の保護のためという理由で、現在加盟国中最多の11品目を留保品目として条約を適用していません。日本へはかつて野生動物の最大の輸入国として非難決議が条約締結国から出されたことがあります。又最近では、象牙の消費量が世界一多いため、日本の輸入が、密猟を助長していると非難されています。

今回のようにワシントン条約に該当する動物を違法に持ち込もうとして税関で摘発される例が増えているようです。最近、報道された例では、5月3日、に埼玉県大宮市の動物業者がタイから偽造の輸出許可証で附属書Ⅱに該当するスローロリスを50匹も持ち込み、税関が許可証が本物かどうかタイ政府に問合せているうちにすべて売りさばかれてしまいました。この男は6月5日にも同じ手口で60匹のスローロリスを持ち込み、この時は許可証の偽造がばれ任意放棄させられました。しかし、その間にほとんどのスローロリスは死亡してしまい、わずか7頭が残っただけです。最近、タイ政府から返還要求が出され、輸送費は航空会社が協力するとの報道がありましたが、その間に失われた53頭の命はもどるものではありません。

ペットを飼育する日本人の中には、他人の飼育していない珍らしい動物、特にワシントン条約に該当する動物を飼うことに優越感を持つような人がいるようです。我々、日本人はこのような行為が野生動物を減少させていることを忘れてはなりません。

天王寺動物園に保護された2羽のモモアカヒメハヤブサは与えられた餌にも慣れ、動物病院のケージの中で元気に生活をしています。しかし、彼らにとってこれが幸せなのでしょうか。ここ日本では彼らはもう大空を飛ぶことはできないのですから。

（飼育課：榊原安昭）

動物園ニュース

§ レアのふ化

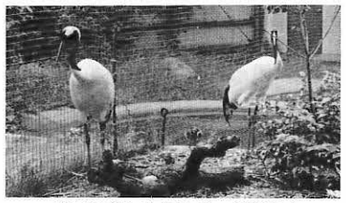
レアのヒナが、6月5日、13日、15日と相次いで3羽人工ふ化しました。4月22日から5月5日まで2～6日おきに5卵産卵し、すべて有精卵でしたが2卵は途中で発生が止まりふ化しませんでした。ふ化日数は41～42日でした。

3羽のレアのヒナとニワトリのヒヨコ

次々にふ化したヒナはニワトリのヒヨコを先生に餌のついばみ方を学習し、順調に育っています。

§ タンチョウのふ化

6月5日と7日にタンチョウのヒナがそれぞれ1羽ふ化しました。ふ化日数は32日と30日でした。繁殖したペアはオスが当園で昭和57年に生まれたもので、メスは昭和57年に京都市動物園で生まれ昭和58年から繁殖のためにお借りしているものです。繁殖は昨年に続き2回目で、昨年は1羽しかふ化しませんでしたが、今年は2羽のふ化に成功しました。両親は2回目の子育てとあって、心配したこともなく落ち着いてヒナにコオロギやミルワームなどを嘴でくわえて与えています。



2羽ふ化したタンチョウのヒナ

§ レニングラード動物園との動物交換

大阪市とソビエト連邦のレニングラード市との姉妹都市提携10周年を記念して動物交換を行なうことになり、6月27日にレニングラード動物園へニホンザル3頭（オス1頭、メス2頭）とリスザル（オス1頭、メス1頭）を送りました。

レニングラード市で行なわれるいろいろな記念行事に出席するため7月9日に西尾市長一行が大阪を出発し、7月10日に記念事業の一つとして動物交換式がレニングラード動物園で行なわれました。

レニングラード動物園からは今秋カラフトフクロウ2羽（オス1羽、メス1羽）とシロフクロウ（オス1羽、メス1羽）が送られてくる予定です。

§ コアラ公開始まる

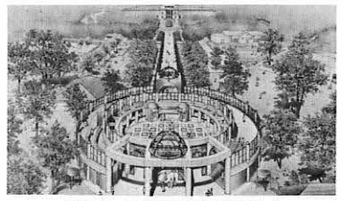
7月1日正午から去る6月1日に来園したコアラ（オス1頭、メス2頭）を一般公開しました。

一般公開に先立つ午前10時30分からコアラ館前でオープン式典を行いました。オーストラリア側から大阪総領事館のウィグレー領事、リンチ上級市会議員（前市長）、メルボルン動物園のワイアー哺乳類課長、コアラの輸送に協力していただいたカンタス航空の職員の方々、大阪市側からは西尾市長、二宮助役、橋本建設局長、伊東動物園長などが出席し、約200名の来賓の方々を前にして、花束贈呈、テープカットなどのオープンセレモニーが行なわれました。

コアラ館オープンセレモニー

§ 中央門が新しくなります

6月6日から中央門の建設工事が本格的に始まりました。今回建設される中央門は直径28.6mの大きな円形で夜行性動物舎とレクチャールームの上の美術館への通路を新世界側まで伸ばし、円形の門の両側に降りられるようになっています。



新しい中央門の完成予想図

円形の建物は地球、世界を表わしています。動物の世界には国境はなく、平和の使者である動物たちは世界中から来ていることを表わしています。

新しい中央門の建設にともない50年以上にわたって利用されてきた南北両園をつなぐ地下道が廃止されました。この地下道には昭和37年まで、水族館が設けられており、多くの市民に親しまれていました。

新しい中央門の完成は10月末の予定です。工事中ご迷惑をおかけしますがご了承下さい。

◎ お知らせ

動物のお話とスライドの会

8月20日(日)　コアラあれこれ

9月17日(日)　長寿動物と動物の寿命

10月15日(日)　動物のあかちゃん

時間：午後1時～2時

場所：北園レクチャールーム

◎ テレフォンサービス実施中

催し物、トピックスなど魅力たっぷりの動物園の案内を24時間テレフォンサービスで行っていますのでご利用ください。

電話番号　771－9999

現在の飼育動物数

（平成元年6月30日現在）

哺乳類	12目	100種	443点
鳥類	20目	192種	654点
爬虫類	8目	36種	86点
合計	35目	328種	1183点

＊ 休園日のお知らせ ＊

動物園の休園日は毎月第3月曜日（休日の場合は翌日）です。10月までの休園日は下記のとおりです。

8月21日(月)、9月18日(月)、10月16日(月)

開園時間は、午前9時30分から午後5時まで、午後4時に切符売り止めになります。

愛ある暮し、応援します。

Kintetsu

近鉄百貨店

DEAR LIFE BOOKS

生態・飼育・図鑑が一つの本の中にギッシリ

中川道朗・岩合徳光／監修
B５変型判・オールカラー
定価580円

動物園で暮らす様々な生き物達、自然の中ではどんな暮らしをしているのか？　動物園での世話の仕方は？　仲間は？　など、写真と精密イラストをまじえ紹介します。

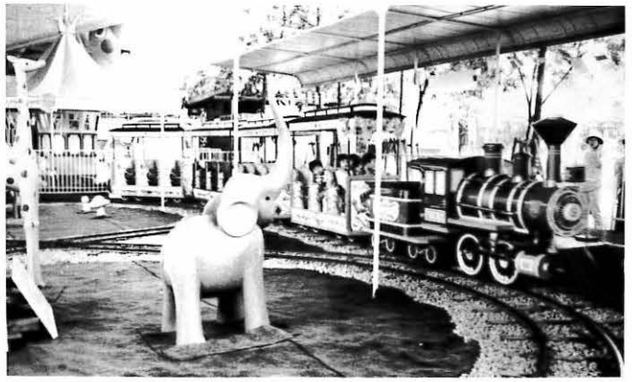
くらしとかいかたシリーズ＜既刊本＞
B5変型判・オールカラー・各定価580円

むし くらしとかいかた
野山でみかける身近な昆虫たち250種を紹介。

ちいさないきもの くらしとかいかた
昆虫以外の小さな生き物を３２０種紹介。

お求めは、お近くの書店で。　ひかりのくに株式会社　本社／〒543 大阪市天王寺区上本町3-2 ☎06-768-1151代表

たのしい〝のりもの〟が待っています。



1人1回
100円
（1才まで無料）

団体割引
（30人以上）
……1割引

久竹娯楽株式会社
TEL(06)541-3938(代)

◎園内3ヵ所（南園入口横、北園ステージ横、北園高架下）に各種〝のりもの〟があります。

いま、フィルムは頭脳をもった。

カメラの大林
桜橋本店　☎341—8091
三番街店　☎372—5031

高画質時代をリードする
はるかに美しく
フジカラー SUPER HR

平岩米吉著

絶賛三版　**猫の歴史と奇話**　（定価・2600円　A５判・260頁　口絵挿画・113図）

猫に関する古今東西の科学と文献を網羅し，しかも平易な文章で綴った猫の宝典。著者の三十余年にわたる収集研鑽の成果，ここに結実。

☆学術書でありながら，推理もののように愉しく読める猫の本
☆架空の伝説は別に，猫の珍しい実話400余を収載

主な目次

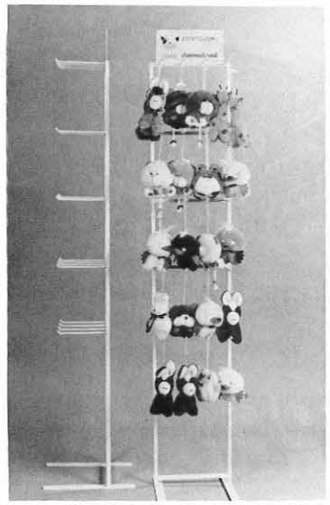
第一章　猫の歴史
欧州は古代エジプト，日本は宇多天皇から近世まで
第二章　猫股伝説
老猫化けてさまざまな怪異をなす
第三章　猫の報恩談
蛇を咬んだり，金を運んだりする
第四章　野性猫の存在
裏日本の山猫，離島の山猫，鬱陵島の猫の渡来など
第五章　猫の奇話（上）
長命，多産，三毛猫などの形態の奇話
第六章　猫の奇話（中）
長距離の帰家記録や鼠を育てるなど不思議な行動
第七章　猫の奇話（下）
マタタビを媚薬とする奇妙な習性など
第八章　益獣としての猫
あらゆる角度から猫の生態と効用を探究

発行　動物文学会　〒152/東京都目黒区自由が丘3-12-2　電話(03)717-1659・振替東京5-9800
発売　㈱池田書店　東京都新宿区弁天町43番地　振替・東京4-165425

●貸出品目/ビデオ「動物園へ行こう」
❶巻・20分（10本常備）
●対　　象/保育園、幼稚園、小学校の先生
●貸出期間/10日間
●貸 出 料/無料（但し、郵送料450円は必要）
●申 込 先/当協会まで、電話かハガキでお申し込み下さい。

動物観察の手引に！
天王寺動物園
ガイドブック
のご購読をおすすめします。
（1冊￥450）園内各売店にあります。

大阪市天王寺動物園協会
〒543/大阪市天王寺区茶臼山町6-74 ☎(06)771-0201

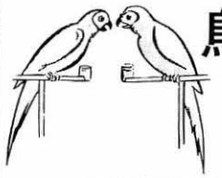


動物ぬいぐるみは
子供のゆかいなお友達

各種ぬいぐるみ企画・製造・卸

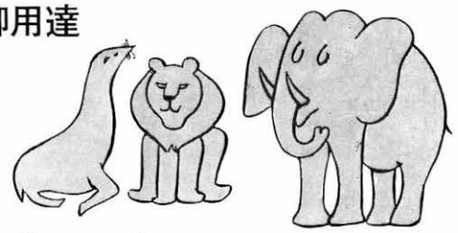
有限会社 **アニメランド**

〒547 大阪市平野区西脇４丁目５番22号
TEL：(06)704－８５８０
FAX：(06)704－８５６５



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達



- 医学実験用動物
- 宣伝用、テレビ用、貸動物
- 原色世界雉類図鑑(34種1枚もの)要郵便券250円

有限会社 **吉　川　商　会**

本　社　神戸市中央区中山手通３丁目11番４号　電話(078)221-8195㈹
飼育場　兵庫県小野市来住町１５１３番地

たのしい〝動物のお話〟は、
ガイドマシン(動物説明機)で、どうぞ!!

園内、主要動物舎
30数ヵ所にあります

関西特機株式会社
電話 06-762-2333
1回　20円

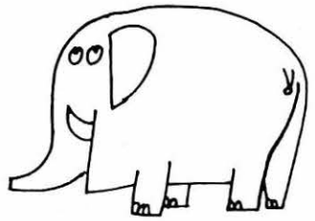
動物園内での
お食事、ご休憩は

大阪市天王寺動物園内

中　央　売　店

☎ (06) ７７１－０９７３

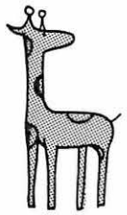
天王寺動物園内



南園売店

大阪市天王寺区茶臼山町６－74
電話 (06) ７７１－７１１０番

園内でのお写真は…
動物園協会指定写真部へご用命下さい!!



◎随時係員が待機しておりますのでご説明に伺いました際は、よろしくお願い致します。

カラー写真 キャビネ1枚 **500円**

撮影無料にてキャビネ1枚をサービスさせて戴きます。
撮影予約も受付しておりますのでご連絡下さい。

国際航空写真株式会社
ＴＥＬ 06－856－7444

雪印乳業

唯ちゃんも、
とってもゼリーも、
ますます成長しました。

フルーツゼリー
とってもゼリー

野生動物をみんなで守ろう

WE SUPPORT WILDLIFE!

天王寺動物園協会の売店に"WWF国際保護動物ぬいぐるみコーナー"が新設されました。このぬいぐるみの売上げの一部はWWFJ(世界野生生物基金日本委員会)に寄付されます。すばらしい野生動物を私たちの手で大切に守りましょう。

ぬいぐるみ販売コーナー新設

お申込み、お問合わせは——

社団法人 大阪市天王寺動物園協会
(天王寺動物園内) TEL (06) 771-0201

株式会社 ファミリア商事部
TEL (078) 321-0345

●お電話でのお申込みは動物園協会まで。
なお、郵送の場合は実費を負担していただきます。

●WWF(WORLD WILDLIFE FUND)とは?
世界野生生物基金。世界中の危機に瀕している動物たちと、その自然環境を保護するための機関です。

なきごえ　1989年8月10日発行（毎月10日発行）第25巻　第8号　（通巻288号）

編　集／大阪市天王寺動物園
発行人／大阪市天王寺動物園協会　橋本一郎
印刷所／株式会社 松村善進堂　定価100円(送料共)　1年継続(12部) 1,100円(送料共)

〒543 大阪市天王寺区茶臼山町6—74
電話　大阪 (06) 771—0201
振替口座　大阪 37823

編集委員　(伊東重朗 / 藤野勝吉 / 中山良三郎 / 樽本　勲 / 中川哲男 / 斉田　尚 / 宮下　実 / 長瀬健二郎 / 榊原安昭
森本委利 / 大野尊信 / 野口秀高 / 早川　篤 / 赤松　建 / 中垣圭史 / 大川光雄 / 山下賢二 / 土谷正道)